

アヤ・ドメニック監督を迎えて

「太陽が落ちた日」

上映会とおはなし



2015年 78分 日本語版

ドキュメンタリー映画「太陽が落ちた日」

1945年8月6日広島原爆投下時、アヤ監督（スイス在住）の祖父・土井茂さんは広島赤十字病院内科医であった。その日から祖父は被爆者の治療に奔走した。

しかし、祖父はそこで見たこと、体験したことを生涯を通じて決して語ることはなかった。

2010年祖父の足跡を巡っていくうちに、同じような体験をした看護師や医師に巡り合う。そして、2011年3月11日東電福島第一原発事故が起きた。

被爆の歴史と福島で現実に行き始めていることをつながりを知ったアヤ監督は、口を閉ざした祖父に想いを馳せる。

祖母・清美さんや当時広島日赤病院看護師だった内田千寿子さん、内部被曝を訴え闘い続けた肥田舜太郎医師らに何度も会い、彼らの語りを聴き、放射線内部被曝と向き合う。

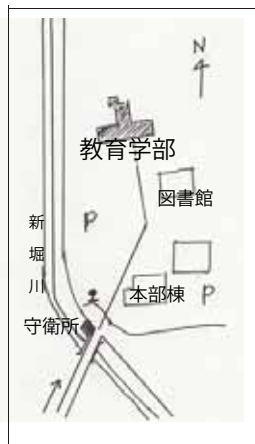
アヤ・ドメニック監督

1972年生まれ。4歳からスイスで育つ。チューリッヒ大学で文化人類学・映画学・日本学を、チューリッヒ芸術大学で映画/ビデオを学ぶ。現在フリーランスとして監督、カメラ、ビデオ制作に携わっている。

2017年 10月 11日 (水) 14:00-17:00

岐阜大学教育学部 1F B102 講義室

JR岐阜駅北口バスターミナル9番のりば乗車 バス停「岐阜大学」下車



岐阜大学案内図

- ・霧箱を使って (放射線の可視化)
- ・「太陽が落ちた日」上映
- ・アヤ・ドメニックさんのおはなし

参加費 無料